

11・3労働者集会&改憲阻止!1万人行進の成功へ

5000の賛同を

常磐線全線開通反対! 高線量地帯に列車を走らせるな!

620人が水戸市内で集会とデモ

9月22日、水戸市内で「高線量地帯に走らせるな!」常磐線の全線開通は安全か? 9・22水戸集会」が開催され、全国から620人が参加。

前半のパネルディスカッションでは、動労水戸の石井

委員長やふくしま診療所の布施医師らがパネラーとなり、東京五輪のために常磐線を全線開通させようとするJR東

「高線量地帯は危険」

常磐線 中止求め集会とデモ 全面再開

水戸

JR常磐線の全面再開の中止を求める集会とデモが二十二日、水戸市内であった。JRの社員で組織する労働組合「動労水戸」の呼び掛けで約六百人が参加し、「高線量地帯に列車を走らせるな」と訴えた。

常磐線は東京電力福島第一原発事故以降、段階的に復旧し、現在は、放射線量の高い福島県富岡町を含む富岡(福島県富岡町)ー浪江(同県浪江町)間の二〇・八キロが不通となっている。JR東日本は来生三月までに全面再開するとしている。

集会では、動労水戸の石井真一委員長が「福島県富岡町は線路から一歩外に出れば高線量地帯だが、会社は列車の線量を測定しないと言っている。社員を被ばくから守ろうとしていない」と批判。ふくしま共同診療所(福島市)の布施幸彦院長は「常磐線の全面再開は、復興をアピールするためのプロパガンダ」と強調した。

集会後、参加者はJR水戸駅周辺一・五キロをデモ行進。JR東日本水戸支社前では「JRは乗客も乗務員も被ばくさせるな」「放射



「高線量地帯に列車を走らせるな」などと訴えながらデモ行進する人たち＝水戸市で



能をまき散らすな」と声を張り上げた。(佐藤圭)

日本を弾劾。

「線路と鉄道用地は除染したから20ミリシーベルトを下回っている」「車両には放射性物質は付着しないから線量は測定しない」というJR東日本の団交での言動が紹介され、パネラーの二人の医師が「あまりに内部被曝を甘く見ている」と指摘しました。

後半は、東海第二原発反対の発言、常磐線の運転士、検修の現場からの発言などが出て会場は盛り上がりました。

集会後、水戸市内をデモ行進し、JR水戸支社や東京電力茨城支社前で怒りの声をあげました。

11・3労働者集会&改憲阻止! 大行進まで6週間です。集会の成功のために全国で5000の賛同を集めたいと考えています。全国で猛然と組織化を開始しよう。賛同用紙は動労千葉ウェブサイトの特設ページからダウンロードできます。